

重症心身障害児・者の内視鏡的胃瘻造設術に合併する 諸問題に関する検討

鶴澤 礼実¹⁾ 森島 直美²⁾ 井原由紀子¹⁾ 林 仁美¹⁾
安元 佐和²⁾ 井上 貴仁²⁾ 廣瀬 伸一²⁾ 小川 厚¹⁾

¹⁾ 福岡大学筑紫病院小児科

²⁾ 福岡大学医学部小児科

要旨：近年，内視鏡的胃瘻造設術など外科手技が進み，経管栄養を行わざるを得ない重症心身障害児・者に胃瘻を適応することが増えてきた．多くの症例が長期間永続的に胃瘻での経管栄養を続けることが多く，合併症も問題になってくる．福岡大学病院小児科で内視鏡的胃瘻造設術を行った症例で生じた合併症の検討を行った．対象は当院で1997年4月から2002年3月までに内視鏡的胃瘻造設を行った6例（男2例，女4例）．基礎疾患はさまざまであったが，全例が大島分類 度の重症心身障害児・者であった．胃瘻造設時年齢は4歳から30歳，平均19.5歳であった．問題が生じたのはのべ5例で，通過困難が2例，挿入部皮膚離開が2例，ダンピング症候群が1例だった．重症心身障害児・者での胃瘻管理は今後さらに長期間におよぶ可能性が高く，その合併症には注意深く包括的な管理が必要である．

キーワード：経皮的胃瘻増設術，重症心身障害児・者，合併症，経管栄養